

研究課題の名称

ホルモン感受性転移性前立腺癌の治療実態に関する前向き観察研究

研究の目的及び意義

未治療転移性前立腺がん(mHNPc)患者の、通常診療における治療実態を前向き調査(PART1)および、2014年5月以降本研究承認日までに治療開始となった患者(PART2)の治療内容、経過の集積により、アンドロゲン除去療法(ADT)単独治療の患者と、アビラテロン、ドセタキセル早期投与患者の比較を行い、京大リスクモデルを用いて、どの患者群にアビラテロン、ドセタキセル早期投与のメリットが大きいかを解明することを目的とする。

京大 mHNPc リスクモデルを用いて患者の層別化をできれば、治療の最適化、より精密な治療の提供が可能となり、社会的意義が極めて大きい。

研究対象者の選定方針

PART 1

選択基準

初診時に転移を有する前立腺癌(stage D2)で研究参加施設にて治療を開始する患者除外基準

- 1) 併存疾患やその他の理由で画像検査等、通常診療での経過観察が不可能な患者
- 2) その他、研究責任医師または研究分担医師が本研究を実施するのに不相当と判断した患者 PART2.

選択基準

・2014年5月から本研究開始日までの間に研究参加施設で初診時に転移を有する前立腺癌

(stageD2)に対して治療を開始された患者

・転移性前立腺癌について現在治療中、もしくは最終転帰の判明している患者除外基準

- 1) 診療録で初診時の各所見について追跡が不可能であった患者
- 2) その他、研究責任医師または研究分担医師が本研究を実施するのに不相当と判断した患者

研究予定期間

承認日 (2019年3月26日) から6年間

以上